

ふるさと歴史 アラカルト

三本の矢(後編) 世界の矢の話

前回、毛利元就の三本の矢の話を紹介しましたが、今回は同様の話が世界的に存在していることを紹介します。

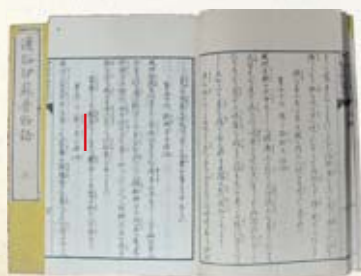
「ウサギとカメ」や「アリとキリギリス」の話でも有名なイソップ物語には「薪の束」という話があります。

その話は「ある田舎に住む農夫の子どもたちは兄弟喧嘩ばかりしていました。父親は家が穏やかでないことを心配していろいろと言いつけましたが、子どもたちは聞く耳を持ちませんでした。そのため、たとえを用いて子どもたちを言い聞かすよう工夫することにしました。ある日、父親は子どもたちを呼び集め、それぞれ一握りの薪を持って帰るように言いつけました。子どもたちが薪を持って帰ると、それらをしっかりと束ね、このままこれを折るよう言いつけました。子どもたちは代わる代わる手や足を使って折ろうとしますが、折れませんでした。そこで父は薪の束を解いて、それぞれに1本ずつ与えて、これを折るように言いつけました。今度は、子どもたちは簡単に

に折ることができました。そのとき父親は笑いながら「子どもたちよ、お前たちの心が一つになっている間は、力が強く敵を防ぐことができるが、もし分裂してしまつたときは、力が弱くなり家を守ることはできない。今後は決してけんかをするな」と丁寧にいさめました」というものです。最後の行に格言として「同心合力は勢いをます」と書かれており、力を合わせることの大切さが述べられています。

また、中国には、毛利元就の話と同様に矢を素材とした話がいくつか残されています。

このように世界中に同様の話が残されているようですが、毛利元就にゆかりの深い広島では、日本語の「三」とイタリヤ語で矢を意味する「フレッツチェ」を合わせた造語が名称となったプロサッカーチーム「サンフレッツチェ広島」もあり、日本においては「三本の矢」が現在も身近な言葉であることがわかります。



◀『通俗伊蘇普物語』…イソップ物語の「薪の束の話」(赤字部分)

いわくにちょうこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 143,489 人【前月比 -115人】 男性 67,954 人 女性 75,535 人

世帯 66,812 世帯【前月比 -10世帯】 ※外国人人口を含む(平成25年10月1日現在)

交通事故発生件数 9月分事故件数 55件(490件) 死者数 0人(7人) 傷者数 75人(594人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成25年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337